

平成25年度「おそきの学校と地域を考える会」(以下、考える会)の活動紹介

1. 地域おこし講演会(1面に概要記載)

考える会による今年最大のイベントにたくさんの方々にご参加いただきありがとうございました。



インターネットで全国での地域活性化事例を検索し、様々な取り組みの中から6事例に絞り込み、小曾木地区住民が聞いた時に最も深い意味を持つと考え、会で第1候補に挙げた依頼先が池谷集落の事例でした。新潟の地から来ていただき、その地域おこしへの取り組みが、自分達にも、参加するボランティアの人達にも、地域の良さ、人のつながりの楽しさを体験でき、また、伝える工夫がありました。

- ・ホームページやブログで自分達を知ってもらう。
- ・都市と農村をつなぐ体験交流事業で来てもらう。宴会での交流を大切に、ボランティア側が料理も調理し準備。村民がお客として深い交流へ。

- ・「山清水米」という独自ブランド米のネット販売農産物直販事業により自分達で収入を稼ぐ工夫。
- ・インターンシップ生を受け入れ移住促進。
- ・日本中を元気にする活動。

視察受け入れ、講演、寄稿による情報発信。自分達の活動に自信を持つことにつなげる。

- ・企業、他団体、十日町市との連携により寄付や支援を受けやすく、税制上も工夫している。

新潟県中越地震での被災から、復興ボランティアの受け入れを通じて受けた刺激。あきらめかけていた集落の存続が、村おこしボランティアとともに話し合い、自分達の地域の魅力(きれいな空気・風景・都会にない濃密な人間関係など)に気づくことで見直され「存続させたい」に変化し実現への行動へ。

【平成23年度地域づくり総務大臣表彰受賞団体】

2. 高齢者の地域行事参加促進

春に続き、秋にも六中七小合同音楽会・小曾木地区文化祭の2行事に岩蔵温泉マイクロバス(儘多屋、司翠館)のご協力で送迎バスを運行



送迎バスの運行

し、地域行事への一般の方、ご高齢の方の参加促進を行い、参加いただくことができました。

3. 小曾木地区の空き家の活用の研究

青梅市による各地域の空き家の調査が終わりました。概数では70軒程の空き家と推定される住宅が小曾木地区にはあるようです。不動産業者との情報交換では、小曾木地区の貸家への入居希望の需要は高く、根ヶ布の団地などより要望が強く、入居者が見込めず。国や都による空き家対策助成金も充実してきているこの時期に活用方法を研究し、実践へ向けての足掛かりをつかめるよう動き始めています。

青梅市市民提案協働事業として、青梅市の担当各課と考える会で取り組む「おそきみんなで元気プロジェクト」を進めています。

◎ おそき一斉メールに登録を

地域情報を週1回程度、また、緊急時に地域情報を登録された方に無料でメール配信しています。

下記アドレスに空メールを送ると登録できます。

osokinogakkou@gmail.com

◎ ブログで地域情報の発信をしています。

「おそきだより」よりも詳細で早い情報の発信となっています。おそきの学校で検索できます。



1面表題脇のジョウビタキの写真

今年度は4回に亘り、富岡1丁目の乙黒地区に見られる野鳥にカメラを向け、多数の写真展に入賞されている富岡1丁目在住の山崎弘さんご提供の「乙黒地区野鳥の四季シリーズ」を掲載しています。

編集後記

近年は、ゲリラ豪雨、巨大な地震、台風、竜巻等、今まで見聞きしたこともないほどの規模の自然災害が世界各地で発生し、甚大な被害を及ぼしている報道を目にします。また、日本では、他国に例をみないほどの少子高齢化が急速に進んでいます。

小曾木地区では、幸いにして自然災害の被害は今のところないものの、少子高齢化が進み、特に若い

人たちが就職や結婚を機に小曾木地区から流出し高齢化傾向が目立ちます。

自然環境には恵まれていても、交通問題により通勤、通学、買い物、通院がしづらい等の色々な実態を分析しながら『おそきの学校と地域を考える会』では、少しでも住みやすく小曾木地区が活気のある地区になることを願うと共に、いざという時のために地域の絆も強めていくことができれば良いと願っています。

(青木恵一)